

元気な子どもの「遊びたい！」気持ちを存分に発揮した生活科学習をめざして ～昔遊びを学習材とした内容（8）の単元構成の工夫～

1. 設定理由

本学級の子どもたちは遊ぶことが大好きで、遊びの中であれば、失敗にもめげず何度でも挑戦する姿が見られた。その一方で勝ち負けのある遊びにおいては、一見楽しく遊んでいるようだが、何度やっても負けてしまう子どもはその遊びで自信をもつ前に意欲を徐々に失ってしまう姿も見られた。自信を失ってしまっていた子どもの姿から、遊びへの自信をもてるまで、飽きずに、没頭できる遊びとして、昔遊びのけん玉やコマを学級に置いておくことにした。けん玉やコマを置くと、それまで関わることのなかった子どもたちが一緒に遊ぶようになり、「もっとみんなで遊びたい。」「他の学年の人ともけん玉やコマで遊んでみたい。」といったつぶやきが生まれるようになった。

こうした実態より、「いろんな人と遊びたい。」という子どもの思いに沿った生活科の活動の中で、生活科内容（8）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を目標とした生活科の授業づくりを行いたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

遊びに没頭できるような活動の設定を工夫し、思いや願いの実現に向けた支援によって、子どもたちが自信をもち、身近な人と関わる楽しさを感じ進んで交流することができるだろう。

3. 研究内容

第1学年 「みんないっしょにむかしあそび」

【手立て1】子どもが遊びに没頭できる活動する場の設定の工夫。

【手立て2】子どもの思いや願いの実現に向けた支援。

4. 結論

遊びに没頭する活動を通して、子どもたちが自分に自信をもつことができた。また自己肯定観を高めることで、人との関わりが広がり身近な人々と関わる楽しさに気付き交流を楽しむ姿を見取ることができた。さらに子どものつぶやきやワークシート等で見られた無意識の気付きを、教員が価値づけ、気付きをより確かなものに変えることで、もっと人と関わりたいという意欲をもたせることができた。個別の支援が必要な子どもに対しては、「なにをしたの?」「どうしたらそうなったの?」と問いを投げ、行動の裏にある思いを汲み取り、価値づけていくことが自信をもって活動する姿に繋がり、人と進んで関わる姿として表れた。単元構成を工夫した本研究において遊びを伝え合う活動は相手のことを想像して伝えることや伝え方を選び、人と触れ合う楽しさを味わう上で有効だった。

1 研究主題

元気な子どもの「遊びたい！」気持ちを存分に発揮した生活科学習をめざして
～昔遊びを学習材とした内容（８）の単元構成の工夫～

2 研究の動機

（１）地域、子どもの実態から

本校は近隣に山や池など自然が多く残る地域で、創立から３０年ほどの比較的新しい学校である。地域との繋がりが強く、昔ながらの地域行事は数多く残っている。教育活動の中に地域の方と一緒にとりくむものも多く、生活科の学習の中でも多くの単元で地域の人と関わっている。全校で３５０人程、各学年２学級編成で特別支援学級もある。

本校の子どもたちは、学習を初めとした活動に対して、意欲はあるが、なかなか思うようにできない面が多々見られる。始めにもった興味を継続していく点に課題があり、長続きしづらい傾向がある。さらに個別の支援を要する子どもが各学級に多くいるため、それぞれの個別の課題に応じた手立てを講じる必要がある。こうした様子から、生活科の学習でやる気を引き出し、達成感を得られるような活動をさせたいと考えた。

（２）主題設定の理由

本学級の子どもたちは、休み時間になると友だちと鬼遊びやボール遊び、かけっこなど様々な遊びを行い夢中になってとりくむ姿が見られる。みんな遊ぶことが大好きで学習ではすぐに諦めてしまい考えることをやめてしまう子どもであっても遊びの中であれば失敗にもめげず何度でも挑戦する姿が見られた。こうした子どもたちの遊びをよく見ていると子どもたちの遊びの多くに競い合い、競争をする遊びが多いことがわかった。様々な遊びを通して勝ち負けを繰り返し何度やっても勝つ子ども、いつも負けてばかりだがめげずに何度も挑戦する子どもなど様々な様子が見えてきた。一方で、一見楽しく遊んでいるようだが何度やっても負けてしまう子どもはその遊びで自信をつける前に意欲を徐々に失ってしまう姿も見られた。そうした子どもは遊びへの意欲を失うことで、その遊びを通して友だちの輪に入ることもなくなってしまう。遊ぶことで自信を失ってしまった子どもの姿から子どもが遊びへの自信をもてるまで飽きずに没頭していける遊びとして昔遊びのけん玉やコマを学級に置いておくことにした。けん玉やコマを置くと子どもたちは休み時間のたびにけん玉を順番に練習しお互いに遊ぶ様子を見合うことでコツを掴もうとしたり、教え合ったりしていた。こうして遊ぶうちにそれまで関わることのなかった子どもたちが一緒に遊ぶようになり「３年に上手い人がある。」「うちのおじいちゃんが教えてくれた。」などとこれまでは見られなかったつぶやきが生まれるようになった。子どもたちの遊びから生まれた自信が「もっとみんなで遊びたい。」「他の学年の人ともけん玉やコマで遊んでみたい。」という子どもたちどうしで交流する場をつくっていったと考える。

本学級の子どもの「関わりたい」「触れ合いたい」という願いから生活科の学習を行うために生活科内容（８）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な

人々と関わることの楽しさが分かり進んで交流することができるようにする。」を主軸に置いた単元計画を構成した。「けん玉やコマでいろんな人と遊びたい。」という昔遊びに夢中になる子どもの思いに沿った生活科の授業を行うために単元計画に基づいて、本研究主題を設定した。

3 研究の内容

(1) 本研究における めざす子どもの姿

自分に自信をもち、人と関わる楽しさを感じる子ども

- 昔遊びを通して、学級や他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わろうとする。
- 身近な人々と一緒に昔遊びを楽しむ活動を通して、感じたことや気付いたことを進んで伝え合う。
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付く。

(2) 研究仮説

遊びに没頭できるような活動の設定を工夫し、思いや願いの実現に向けた支援によって、子どもたちが自信をもち、様々な人と関わる楽しさを感じることができるだろう。

(3) 研究の手立て

【手立て1】子どもが遊びに没頭できる活動する場の設定の工夫

① 昔遊びに没頭する場の確保

子どもたちが遊びに没頭することができるように遊び道具は休み時間に自由に遊べるように教室に遊び道具コーナーをつくった。本学級の在籍は24人なので教室の後方が広く開いている。その場所を活用しマットを敷いて遊ぶ場所を確保した。また一つの遊びだけでなく様々な遊びに関心をもてるように声かけを行ったり、子どもどうして見合ったりする時間を確保した。時間をかけて遊びに没頭することで、それまで気付かなかった遊びの良さや自身の成長に気付くきっかけとなると考え、子どもたちが十分に自信をもてるようになるための手だてとした。

さらに子どもたちが熱中できる遊びとして、まずは自分一人でも遊ぶことができ十分に自信をつけることができる遊びであることが必要だと考えた。そこで今回は子どもたちが関心をもった昔遊び「けん玉、コマ、あやとり、おてだま、おはじき、おりがみ」を扱うこととした。

② 様々な人と遊ぶ場の設定

子どもたちのつぶやきから休み時間に自教室の中で他学年との交流の機会をもてるようにした。遊び道具を自由に使えるように準備し上級生と遊び「6年生のお兄さんってすごいなあ」「コツを教えてもらったよ」などの関わりができると考えた。また本校で繋がりのある地域の方を昔遊びの名人として招き、遊びの種類ごとにいくつかのグループに分かれて名人と一緒に遊び、技を教わる活動を取り入れた。遊びを教わる活動を通して、これまで知らな

った遊びや、地域の人の魅力に気付き、一層意欲を高めることができると考えた。

さらに近隣の保育所と交流する場を設定し交流の場には遊びを教えてくれた地域の方々も招き、子どもたちの成長と安全に交流できるかを見守ってもらえるようにした。活動の場を遊びごとにいくつかのブロックに分け、全ての遊びを体験できるようにした。幼児と一緒に活動することで年上意識をもち小学生となった自分の成長を感じることができる機会になると考えた。こうした活動を行うことで教わってできるようになった自分や教えてあげる自分に気付き、達成感と自身の成長を感じ、関わりへの意欲が高まると考えた。

③ 子どもが遊びに没頭できる単元構成の工夫

本校の生活科年間指導計画の中で、内容（８）に関わる単元を整理し低学年の２年間を通して目標の達成をめざした「みんなとなかよし大作戦」として設定した。子どもたちの「関わりたい」「触れ合いたい」という願いをもった昔遊びをこの単元の小単元に組み込むことで子どもの願いに答えた単元計画になると考えた。

【手立て２】子どもの思いや願いの実現に向けた支援

① 子どもの活動を価値づける支援の工夫

子どもが体験したことをワークシートに書き表すことで体験したことや感じたことを言葉や絵で表現できるようにした。文でかくことが苦手な子どもには絵でもかけるように配慮した。そうすることで、ワークシートに書かれた子どもの気付きや喜びを評価したり、無意識の気付きを価値づけたりでき、意欲が高まるのではないかと考えた。

また絵や文でかくこと自体が苦手な子どもについては活動した内容について声かけを行い、子どものやったことから価値づけることができるようにした。このような手だてを行うことで子どもたちが自信をもって遊びにとりくむことができるようになり「いろんな人と遊びたい」という子どもの願いの実現に安心して向かっていけるのではないかと考えた。

② 保育園・幼稚園での昔遊びの経験の想起

学習前の実態調査から保育所や幼稚園でけん玉やコマなどの遊びを行った子が多いことがわかり、これらの遊びに対して自信をもっている様子が窺えた。そこで子どもたちのこれまでの経験を想起させることで、昔遊びの活動に意欲をもたせ楽しみながら活動できるようにしようと考えた。これまでやったことのある昔遊びを取り上げやってみることで、子どもたちはその技をみたり、教え合ったりしながら活動を広げる様子が想定された。そこで、幼稚園や保育所で経験のある昔遊びをできるように道具を準備することでその遊びを知らない子どもたちとの交流が生まれ、新たな気付きへと繋がるのではないかと考えた。

③ 子どもの思いを受け止め、価値づける支援

本学級には人との関わりが上手くもてない子どもや個別の支援を要する子が多く、遊びが好きで、みんなと一緒に遊びたい思いは強くもっているがうまく関わるできないため友だちと一緒に遊んでもすぐにトラブルが起きてしまう様子がよく見られた。本当はみんなと遊びたいと思っている子どもの思いに教員が寄り添い、理解していく必要があった。個別の手立てを行うために活動に対して適切な声かけをし、行動を価値づけることが重要ではないかと考えた。

4 活動の実際

(1) 単元名 みんないっしょにむかしあそび

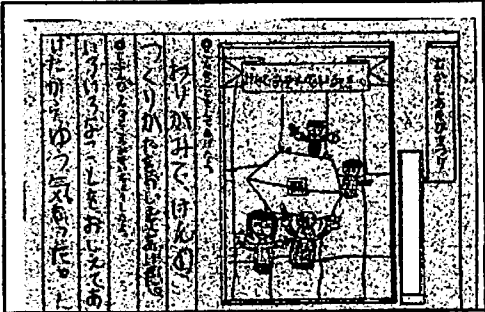
(2) 単元の目標

- 昔遊びを通して、クラスや他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わることができる。
(生活への関心・意欲・態度)
- 昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合うことができる。(活動や体験について思考・表現)
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 活動の実際

次	時	主な学習活動と内容 (○) 子どものつぶやき (・)	教師の支援 (○) と仮設との関連 (◆)
1	1	【昔遊びを楽しもう】 ○これまでにやったことのある昔遊びを振り返る。 ・けん玉はこうやって遊ぶんだよ。 ・こんな遊びをしたよ。 ・○○の遊びが好きだったよ。	○幼稚園や保育所での経験を想起させる。 ◆「こうやって遊ぶんだよ。」「こんな遊び方を知っているよ。」などの関わりが見られ、友だちと伝え合う姿が見られた。【手立て2-②】
	5	○昔遊びを楽しむ コマ、けん玉、お手玉、あやとり、折り紙、おはじきで遊ぶ。 ・こうやればうまくいくよ。 ・6年お姉さんすごく上手だったよ。 ・あのお兄ちゃんに挑戦したいな。 	

1		いたいな。」などのつぶやき生まれ、関わりへの意欲が生まれ、その後の進んで関わり、楽しむ様子が見られた。 【手立て1-②】 ◆子どものつぶやきを汲み取ったり、様子を見守ったりしながら様子を見ていくことで、意欲づけができ、子どもどうしでの声かけや価値づけ、活動での触れ合いが豊かになった。 【手立て2-③】
2	【名人に昔遊びの技を教わろう。】 1 ○地域の人に招待状を書く。 ・名人に教わってみたいな。 ・うまくなっているんなあそびをしたい。 1 ○地域の人たちと遊ぶ。 ・教えてもらったらできるようになったよ。 ・折り紙の折り方を教えてあげたよ。わたして先生みたい。 1 ○地域の人にお礼の手紙を書く。 ・また見に来てほしいな。 ・もっと一緒に遊びたいな。	○子どもたちからの「もっと上手になりたい」というつぶやきを拾い、地域に昔遊びの名人がいることを伝えた。 ○教わりたい遊びの技やこれまで知らなかった遊び方を聞けるように場を設定した。 ◆遊びのコツを教わったり、一緒に遊んだりすることで見知った顔の人たちが実はこんなにすごい人たちだったのかと驚く様子が見られた。 また前より自分たちがもううまくできるようになったと自信をもち、もっと一緒に遊んだり、教わったりしたいという意欲に繋がった。 【手立て1-②】
3	【みんなで楽しく遊ぼう。】 3 ○保育所の幼児を招待する準備をする。 ・画用紙に幼児ができる遊びの説明をを書いて、どの遊びならば一緒に遊べるか考えた。 1 ○保育所と地域の人に招待状を書く。	○「上手くなった昔遊びの技や遊び方を誰かに教えたい」というつぶやきから、近隣の保育所の幼児に教えたいという想いを汲み取った。 ○一緒に楽しく遊びたいという子どもの願いから、幼児には難しい遊びができないかもしれないという思いやが見られたため幼児とも一緒に遊

3	・ちゃんとお兄さんになって教えているのを見てほしいな ・保育所の子と一緒に遊びたいな。 1 ○幼児と一緒に遊ぶ。 ・こうやってつくるんだよ ・一緒に遊べて楽しいな。 ・上手く教えられたな。また一緒にやりたいな 1 ○これまでの活動を振り返る。  いろいろなことを教えてあげたからゆうきをもった。	ぶことができる遊びを考える時間を確保した。 ○幼児が安心して活動できるように必ずグループで一緒に行動するように話をした。 ○地域の人たちに子どもたちの遊ぶ様子を見守ってもらうようにした。 ○個別の支援を要する子については事前に保育所と連絡を取り合い、共通理解を図った。 ◆幼児と関わることで1年生に年上という自覚が生まれ、話を聞いてあげたり、教えてあげたりする姿が見られた。【手立て1-②】 ○幼児と遊んだ体験を振り返り自分がどんなことをしてあげたのかを考えさせた。 ◆ワークシートに書くことで自分がやったことが明確化され捉えなおすことができた。自分がやったことから、自身の成長を感じ、更なる関わりをもちたいというつぶやきが生まれた。【手立て1-②、2-①】
---	--	--

5 考察

【手立て1】子どもが遊びに没頭できる活動する場の設定の工夫

① 昔遊びに没頭する場の確保

子どもたちが自由に遊べるようにおもちゃをすぐ手に取れるところに置いておいたことで、休み時間に遊びに熱中する子どもの姿が多く見られた。また子どもたちが自分でできるようになった技を台の上ののって挑戦するおためしも自分たちで積極的にとりくむ姿が見られた。子どもたちは朝の会でおためしに挑戦することを楽しみにしており「今度やってみなよ。」と友だちを誘ったり、「次はうまくいくよ、またやってみなよ。」と励ましたりする姿が見られた。おためしの場をつくったことで新しく関わりが生まれ、それまで恥ずかしがっていた子どもも楽しんで関わることもできた。

○子どもたちの姿 ～Aの例～

Aは毎朝学校に通うことが難しく入学後からたびたび登校できない状況が続いていた。何とか学校にきても静かに座っているだけでなかなかコミュニケーションをとっている

場面を見ることはなかった。そんな A は折り紙には興味をもったようで折り紙でいろいろなものを折っていた。A は家にいる時お母さんと一緒に折り紙を折っており、その時覚えた折り紙をたくさん作っていた。その様子を見た子どもが A のところに行き、折り方を教わっている様子が見られた。普段はあまりしゃべらない A だが、折り紙には自信があったようで、「ここはこうするんだよ。」と自信ありげに少しだけ笑みを浮かべて教えていた。この時から、A は休み時間に折り紙をすることが増え、そのたびに周りの子に折り方を教える姿が見られた。地域の人が昔遊びを教えに来てくれた時は折り紙のコーナーで教える側に立ち昔遊びの名人に折り紙を教えてニコニコ笑っている姿が見られた。地域の人に「小さな先生に、逆に教えられちゃった。」と笑顔でいわれたことが A にはうれしかったようで、ますます自信をつけたようだった。

その後、A は折り紙だけでなくけん玉などの他の遊びもするようになった。他の遊びをすることでそれまで関わることのなかった友だちと関わり、楽しく遊ぶ様子が見られた。

A の例から折り紙を教えることが自信に繋がり遊びを楽しむ様子が見られた。特に昔遊びの名人として来てくれた地域の方に褒めてもらえたことで一層自信をつけることができていた。こうした自身の積み重ねによって A はそれまで遊ばなかった遊びに関心をもち、とりくむことで人と関わる楽しさを感じることができたと考える。A は遊びを通して人に褒めてもらえたり、すごいといってもらえたりすることで、自己肯定観を高め、さらにいろいろな人と関わる様子が見られた。こうした A の様子から自分や自分の行動に自信をもつことが子どもが人との関わりを広げていくために必要な要素となっていたことが読み取れた。

② 様々な人と遊ぶ場の設定

いろいろな人と遊びたいという子どもの思いを叶えるために昔遊びを通してこれまで関わりのなかった身近な人々と交流することができた。上級生の技を見せてもらったり、逆に 1 年生の技を見せて驚かれたりする様子が見られた。こうした関わりをもったことで「けんだまのお兄ちゃんだ。」「今度、コマで対決したい。」というもっと関わりたいという思いの現れたつぶやきが生じた。

またできるようになった昔遊びへの自信がついたことで地域の人から昔遊びのコツを教わり、もっと上手になりたいという思いをもてた。地域の人に遊び方を教わりながら楽しむ活動を通して、これまで知らなかった地域の人と深く関わり遊びの技や新しい遊び方を教わることができた。こうして遊んだことで子どもたちは教えてもらった地域の方に「また来てほしい。」「上手くなった自分を見てほしい。」という思いをもち関わることで得られる喜びを感じていた。お礼のお手紙を書きたいと言い、更なる関わりを求めている様子が見られた。

保育所との交流では、子どもたちの教えたいという欲求に応えたものになった。幼児との関わりでは子どもたちの感想からこれまで教わる側だった 1 年生が教える側になった期待と緊張を感じている様子が読み取れた。

子どもの感想

- 「保育所のペアにけん玉の持ち方を教えてあげたよ。今までは教えてもらってたけど今は教えるのが成長したよ。」
- 「折り紙で風船の折り方を教えてあげた。いろんなことを教えられて保育所の人ができるたから成長したと思いました。」

教えてあげたいという思いから実際に一緒に遊ぶ中で教えることができるようになった自分、保育所の幼児の様子から自分の成長を感じることができた等、自身の成長を感じることができた。また活動を通して上手に教えてあげられた自分の成長を感じ、技や遊び方を教えてくれた地域の方に自分たちの成長を見てほしいという思いをもっていた。

こうした体験を通して関わることで得られる自信の成長に気付き「もっと一緒に遊びたい」というつぶやきが生じていた。様々な人々と一緒に遊ぶことで自身の成長を感じ、もっと関わりたいという思いに繋がったのではないかと考える。

③ 子どもが遊びに没頭できる単元構成の工夫

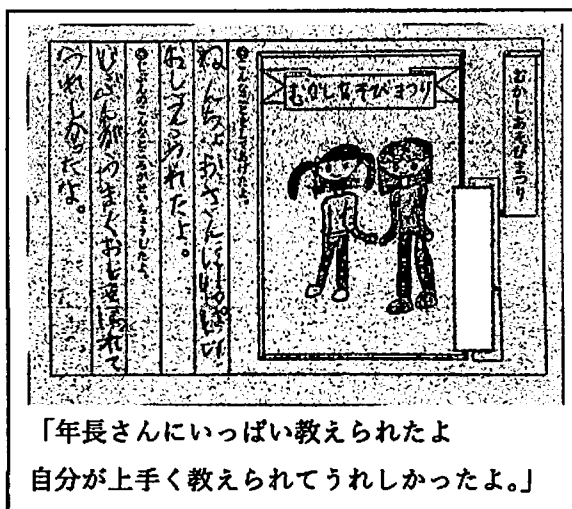
本単元を単元名「みんなとなかよし大作戦」の小単元として位置づけ、本学級の子どもたちの熱中する昔遊びを学習材としたことで、子どもたちから「関わりたい」「触れ合いたい」という思いが溢れ、保育所との交流では幼児のことを想像し、「一緒に遊ぶにはどうしたらいいかな」「なにがいるかな？」と相手のことを考えて活動する様子が見られた。こうした子どもたちの姿から単元の目標である内容（８）に迫ることができたと考える。

【手立て２】子どもの思いや気付きを価値づける支援の工夫

① 子どもの活動を価値づける支援の工夫

感想の中には「年長さんにいっぱい教えられたよ。自分が上手く教えられてうれしかったよ。」というように幼児と一緒に遊んだことで、伝えることの楽しさ、触れ合うことの喜びを味わっている子どもの姿を読み取ることができる。

更にワークシートに「自分がなにをしたのか。」「自分のせいちょうしたこと。」を書くようにしたことで活動を振り返り、関わったことで感じた喜びを表現することができた。活動をワークシートに記したことで、体験したことを想起し、捉えなおすことが



でき、子どもたちたちが感じた触れ合うことの楽しさをより確かなものにすることができた。また子どもたちの書いたワークシートの記述をもとに教員がコメントや声かけを行うことで体験した関わりを肯定的評価した。こうした教員の支援によって子どもたちは自信をつけ、もっと一緒に遊んでみたい、教えてあげたいという思いをもつことができたと考えます。

② 保育園・幼稚園での昔遊びの経験の想起

昔遊びが子どもたちにとって保育所や幼稚園で経験のある遊びだったことは安心してとりくむことのできる要因となっていたと考えられる。またこれまで昔遊びをした経験のない子どもは経験のある子どもたちから遊び方やコツを教わる姿が見られた。経験のある子どもたちは経験を想起したことで自信をもち、進んで遊び方を教える様子が見られた。こうした様子から、幼稚園や保育所での昔遊びの経験を想起したことで子どもたちの関わりを生むことができたと考える。

③ 子どもの想いを受け止め、価値づける支援

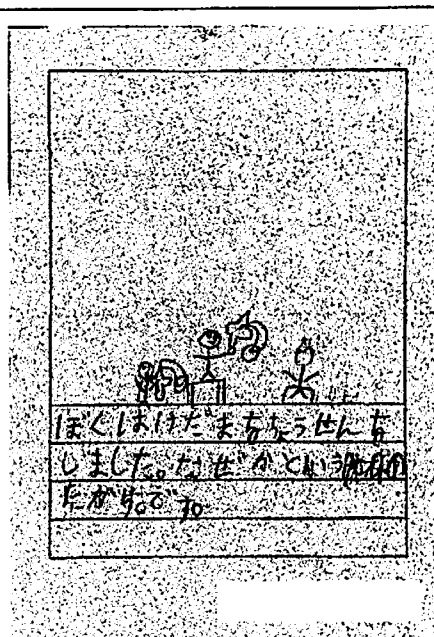
個別の支援を要する子どもたちへはどのような言葉かけを行えばよいかていねいに寄り添いながら実践を重ねていった。思いを受け止め、価値づけるとはどういったことなのか子どもたちの姿からどのように学びを構築していったのかを検討する。

○子どもたちの姿～Bの例～

ある日直だったBは朝のスピーチの後のけん玉チャレンジに挑戦していた。みんなが見守る中、結果は失敗。終わった瞬間「ぼくは、けん玉嫌いだから」と呟いていた。わたしはなぜ挑戦しようと思ったのかと聞いてみた。するとBはわからないと首を横に振った。ここはもうひと押しと感じたので他の子たちにBはあんなに嫌がっていたのに今日やってみようと思ったのはなぜだろうと尋ねてみた。Bがけん玉の練習をしていたのを知っている子たちはBが頑張ったからできるようになったんじゃないかとBの努力を認めていた。それについてBは違うと言いたが、自分の努力を他の子たちが見ていてくれたことについてはうれしそうだった。

わたしはBが挑戦しようと思った理由は日直の前日に行ったけん玉大会の時に自分で大皿に乗せることができたと言っていた件が関係しているのではないかと考えていた。そこで彼にもう一度たずねてみると「だって昨日3回ものせられたんだもん」と答えてくれた。わたしは、「それで挑戦しようと思ったのか。それはすごいことだよ。」と言葉かけをしお母さんが大好きなBに「そのことを絵日記に書いてお母さんに教えてあげたら喜ぶんじゃない？」という、ニヤッと笑い、普段嫌いでなかなか書かない絵日記を書いていた。絵日記を書いている途中にもけん玉の練習をし、その時のった1回も加えて、4回できたと書いていた。あくる日にBに絵日記をお母さんに見せたかと尋ねると「見せたよ。見せたら褒めてもらえた。」と照れながら話してくれた。

そこからけん玉をつづけ「～回のった」とわたしに教えに来てくれるようになってきたことに加え、友だちとのトラブルがだいぶ減った。周りの子にやさしくなった。これまではある一人の子とだけ一緒に遊ぶことが多かったのだが、けん玉をするようになってから共通の話題ができていろいろな子たちと関わるようになっていった。



Bは本当はけん玉をやってみたかったのではないかとすることはそれまでのBの様子から

感じていた。わたしはBのように自分のできないことに強い抵抗感を抱いている子どもについては気持ちが遊びに向かうまで待つことが必要ではないかと感じて見守っていた。このようにBの活動を見守っていたからこそBがけん玉に挑戦し失敗した際にそれまでのBのとりくみを知っておくことができた。だからこそBに「なぜ挑戦したのか」と問い、Bの言葉を引き出すことができた。行動の裏にある思いを汲み取り、価値づけることはBのような子にとって有効だったと考えられる。また友だちとの関わりについても上手くいかないから積極的に関わるができなくなってしまうのではないだろうか。何度でもやり直せる環境を整え安心して挑戦できるような活動を設定することでBにとっての不安が解消され、関わりが生まれたと考える。こうしたBの姿から失敗を嫌がる子どもには失敗することに対する考え方を変えていけるように支援する必要があると考える。

6 結論

遊びに没頭する活動を通して、子どもたちが自分や自分の行動に自信をもち自己肯定観を高めることが、人との関わりを広げて身近な人々と関わる楽しさが分かり交流を楽しむ姿を見取ることができた。また子どものつぶやきやワークシート等で見られた無意識の気づきを、教員が価値づけ、気づきをより確かなものに変えることで、もっと人と関わりたいという意欲をもたせることができた。個別の支援が必要な子どもに対しては、「なにをしたの?」「どうしたらそうなったの?」と問いを投げ、行動の裏にある思いを汲み取り、価値づけていくことが自信をもって活動する姿に繋がり、人と進んで関わる姿として表れた。単元構成を工夫した本研究において遊びを伝え合う活動は相手のことを想像して伝えることや伝え方を選び、人と触れ合う楽しさを味わう上で有効だった。

7 成果と課題

【成果】

- 遊びに没頭する活動を通して、子どもたちが自分に自信をもつことができた。また、自己肯定観を高めることで人との関わりが広がり身近な人々と関わる楽しさに気づき交流を楽しむ姿を見取ることができた。
- 子どものつぶやきやワークシート等で見られた無意識の気づきを教員が価値づけ、気づきをより確かなものに変えることでもっと人と関わりたいという意欲をもたせることができた。
- 個別の支援が必要な子どもに対しては「なにをしたの?」「どうしたらそうなったの?」と問いかけ、行動の裏にある思いを汲み取り価値づけていくことが自信をもって活動する姿に繋がり、人と進んで関わる姿として表れた。
- 単元構成を工夫した本研究において遊びを伝え合う活動は相手のことを想像して伝えることや伝え方を選び、人と触れ合う楽しさを味わう上で有効だった。

【課題】

- 本研究では子どもが伝え合う活動に向かっていく様子は見られたが、十分に達成することはできなかった。本校の生活科の年間計画に基づき、伝え合い、関わり合いに関しては今後の課題としていきたいと考える。

元気な子どもの「遊びたい！」気持ちを存分に発揮した 生活科学習をめざして

～昔遊びを学習材とした内容（8）の単元構成の工夫～

資料編

【目次】

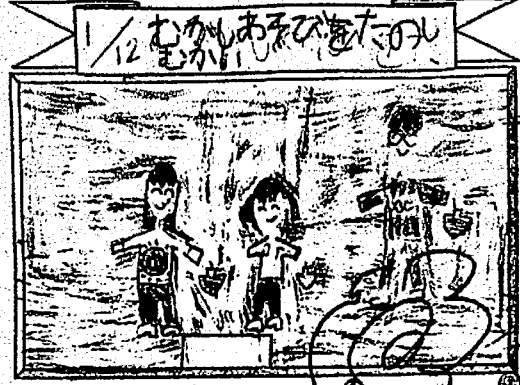
資料1	遊びを楽しむ会感想（地域の人と遊ぶ）	・・・1頁～4頁
資料2	昔遊びまつり感想（保育所を招待）	・・・5頁～7頁
資料3	百寿会の人との交流の実際（地域の人と遊ぶ）	・・・8頁～9頁
資料4	保育所との交流の実際	・・・10頁
資料5	教室での遊びの様子	・・・11頁
資料6	生活科学習指導案	・・・12頁～17頁
資料7	千葉市立生浜東小学校 生活科年間指導計画	・・・18頁
資料8	生活科「みんなとなかよし大作戦」単元計画	・・・19頁

参考文献

文部科学省 「学習指導要領解説 生活編」

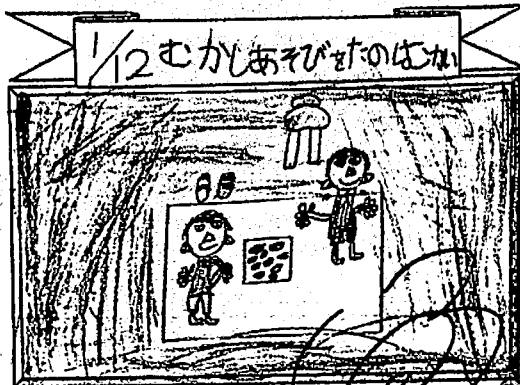


まうつたにんか
 いてあへはかた
 しましにせせと
 おぬいまをしと
 てもうたかりあ
 はいんのるうるが
 わかたから木の
 しかたです。
 かにあそびたに
 ちうと。



キ、こつた。いゝか、ゆて
ゆあさかすおせんせ
國とノニ生のいぬに
しまいた。ノニ生を井
わしてはやくとまた
まがまが。ノニ生を井
おせいにつれいかた
です。

あふた。ノニ生を井おせいにつれ。
おせいにつれ。



一月は日たのいくかんて
 ちやんとくんが、
 ありや ちせせんせし
 にあて玉をおそわりま
 した方せせんせんにあ
 そわりながらんしゅう
 をしましたおしえてくれ
 てでききうになリまし
 た。つれなりつたです。
 が、まうとておもひにい
 いはいれんしういはいと

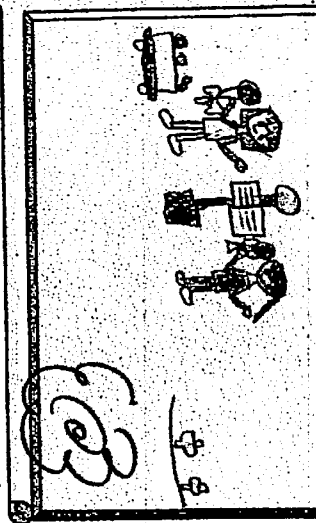
[illegible]

1/2 おかしあそびの時間



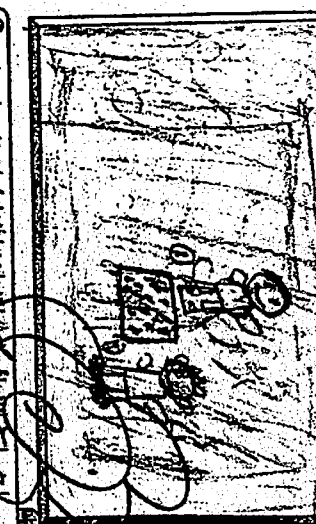
一、田中君、お友達と遊ぶ。
二、お友達と遊ぶ。
三、お友達と遊ぶ。
四、お友達と遊ぶ。
五、お友達と遊ぶ。
六、お友達と遊ぶ。
七、お友達と遊ぶ。
八、お友達と遊ぶ。
九、お友達と遊ぶ。
十、お友達と遊ぶ。

1/2 おかしあそびの時間



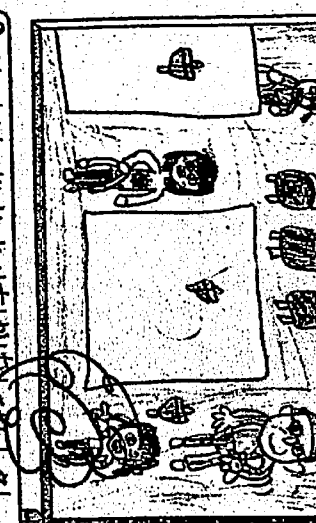
一、田中君、お友達と遊ぶ。
二、お友達と遊ぶ。
三、お友達と遊ぶ。
四、お友達と遊ぶ。
五、お友達と遊ぶ。
六、お友達と遊ぶ。
七、お友達と遊ぶ。
八、お友達と遊ぶ。
九、お友達と遊ぶ。
十、お友達と遊ぶ。

1/2 おかしあそびの時間



一、田中君、お友達と遊ぶ。
二、お友達と遊ぶ。
三、お友達と遊ぶ。
四、お友達と遊ぶ。
五、お友達と遊ぶ。
六、お友達と遊ぶ。
七、お友達と遊ぶ。
八、お友達と遊ぶ。
九、お友達と遊ぶ。
十、お友達と遊ぶ。

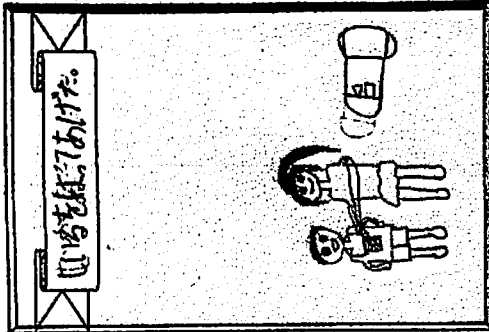
1/2 おかしあそびの時間



一、田中君、お友達と遊ぶ。
二、お友達と遊ぶ。
三、お友達と遊ぶ。
四、お友達と遊ぶ。
五、お友達と遊ぶ。
六、お友達と遊ぶ。
七、お友達と遊ぶ。
八、お友達と遊ぶ。
九、お友達と遊ぶ。
十、お友達と遊ぶ。

おかしあそびまつり ◎1人1人おしゃべりだよ。 こまをいじって遊ぶよ。 けん玉や、おしゃべり、おしゃべり。 ◎おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。	おかしあそびまつり ◎1人1人おしゃべりだよ。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 ◎おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。
おかしあそびまつり ◎1人1人おしゃべりだよ。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 ◎おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。	おかしあそびまつり ◎1人1人おしゃべりだよ。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 ◎おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。 おしゃべり、おしゃべり、おしゃべり。

おかしな夢さびまう



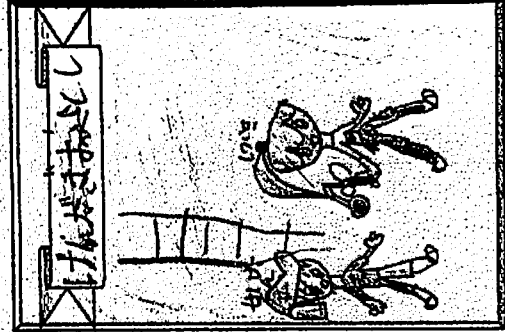
◎いびきを寝てあげた。

ナナ、いびきを寝てあげた。いびきを
むくんだ。いびきを寝てあげた。

◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

おかしな夢さびまう



◎いびきを寝てあげた。

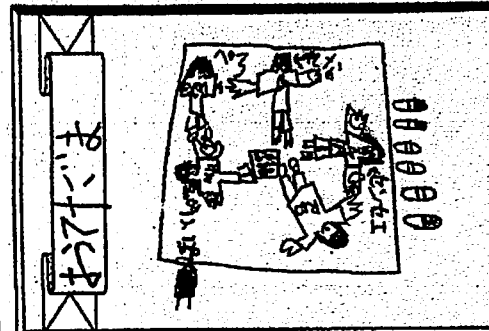
いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。

◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

おかしな夢さびまう



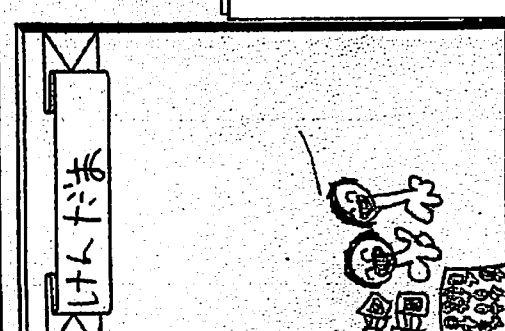
◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

おかしな夢さびまう



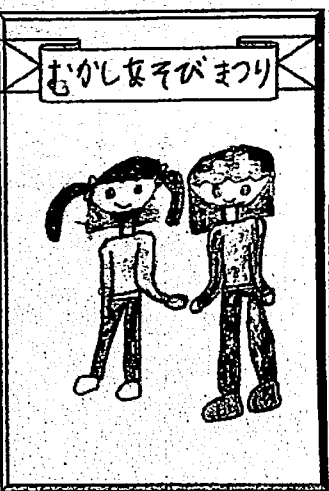
◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

◎いびきを寝てあげた。

いびきを寝てあげた。いびきを寝てあげた。
いびきを寝てあげた。

むかしあそびまつり



◎こんなことをしてあげたよ。

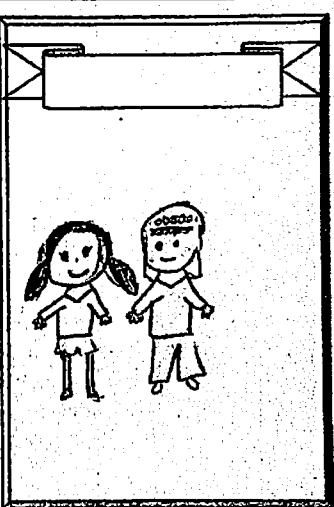
ぬんちよかさんにはおはよう
おしえられたよ。

◎じいんのいんちがせいちょうしたよ。

「さういふから、まゝおしえて呉れて
分れしかつたな。」

七

むかしあそびまつり



◎こんなことをしてあげたよ。

月夜下江心山書懷

◎じぶんのこんなところがせいちょうしたよ。

ねんぢうさんによきくした
りわかりやすくおしえたこと

これから名人に昔遊びを教わるよ。

もっと上手になれるかな？



お手玉は難しいなあ

教えてもらってうまく

できるようになったよ

膝を使って、

ふわっとだね



これであってるかな？

難しいところを教えて
もらったよ



おはじきってこんな
遊び方があるんだね

名人は上手だな！！

コツを教わったから
わたしもまけないぞ！





こんな遊び方が
できたよ

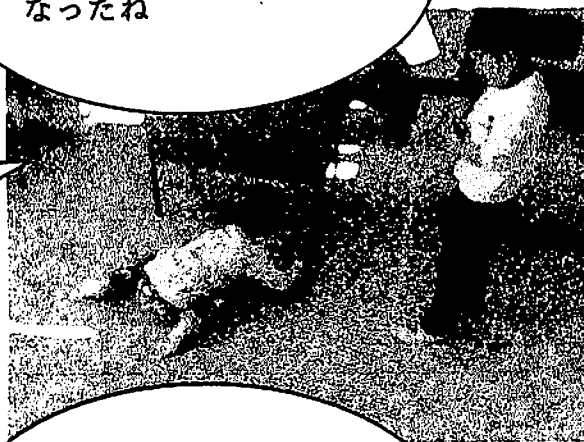


わたしがけんだまする
のよくみててね

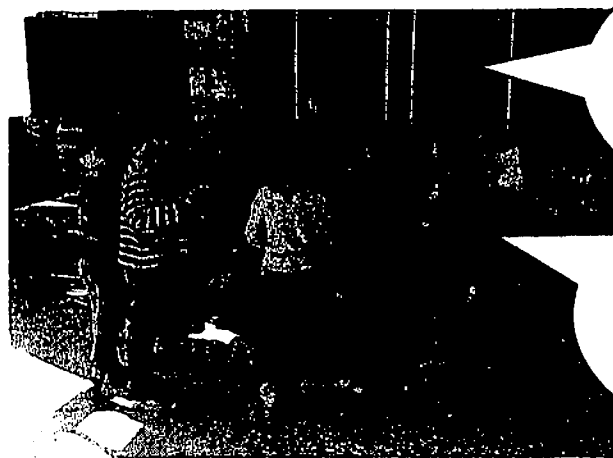


すごい！できるように
なったね

すごくながくまわって
るね すごい！



今度は僕の番だよ
うまくのせられるかな



がんばって！
次は僕の番だよ！

1 単元名 みんなでなかよし大作戦

2 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容（8）とかかわりのあるものである。

（8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

学習指導要領の改訂に伴い、新設された指導計画の作成と内容の取扱い（2）「児童の発達の段階や特性を踏まえ、2 学年間を見通して学習活動を設定すること。」を踏まえ、本校の生活科の単元計画から、身近な人々と伝え合う活動に着目し、内容（8）に連なる学習として、2 学年間の学習活動を再構成した。単元計画に基づき 1 学年から段階的に内容（8）の目標を達成できるように学習活動を設定することで、2 年間かけ、身近な人々と関わり、進んで交流する子どもの姿をめざしたいと考えた。

(2) 本校の実態から

本校では、ペア学年として 6 年生、近接学年として 2 年生が 1 年生の学習に深く関わってくる。また地域との関わりも強く、交流の機会が多く存在している。そのため、1 年生の学習には異学年をはじめ、地域の敬老会や保育所との交流が毎年組み込まれている。こうした本校を取り巻く地域の実態を生かして、小単元を内容（8）に連なる単元計画として組み込んだ。本時では、単元計画より「昔遊び」を学習材として、身近な人々と関わり、伝える活動をめざしていきたいと考える。

(3) 小単元の目標

身近な人々と昔遊びの活動を通して触れ合い、感じたことや気付いたことを伝える楽しさを感じ、進んでかかわることができる。

(4) 小単元の評価規準

- 昔遊びを通して、クラスや他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わるができる。(生活への関心・意欲・態度)
- 昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合うことができる。(活動や体験について思考・表現)
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

3 部会研究課題との関わり

研究課題（3） 自分自身や自分の生活について考え、新たな気づきを生み出す「身近な生活に関わる見方・考え方」を育む生活科を実践する。

○昔遊びを通して、伝え合い交流する活動を充実させる学習活動の工夫

うまくなったから、誰かに見てほしい、伝えたい、一緒にやりたいという思いは本学級の子どもたちの普段の様子から対象となる相手を設定することで生まれると考える。そこで本小単位では本校の生活科の単元計画に基づき、1年生段階の伝え合う活動のできる子どもの素地を培いたいと考えた。

こうした子どもたちの伝え合いの活動で必要な友だちの考えを聞く補助となるように、「あそびカード」を使った活動を考えた。「あそびカード」には自分ができるようになった遊びを書く表側と遊びを教えてあげたり、教わったりした時に、サインを書く裏側がある。カードを使った活動によって、これまでよりも友だちの考えを聞くことができるようになると考えた。このように友だちの言葉で聞くと、知っていると思いこんでいたことの中に、新たな気づきが生まれ、学びが深まるきっかけになると考えた。

○思いを価値づけ、伝える場の設定

本学級の子どもたちは自分ができることを伝えたいという思いを強くもっている。活動しながら、自分の思いを伝えることができるように、昔遊びの道具は子どもたちがいつでも手に取ることができる場所に置いておき、常時活動として取り組むことができるようにする。

また本学級の子どもたちの特徴として、体験を忘れてしまい、その後に残りづらい子どもが多くいるため、活動している瞬間に声かけをし、体験したことやそこから得た無自覚な気づきを価値づけていく必要がある。単元全体でその子どもに応じた支援を計画的に行い、気づきの積み重ねから自信を育んでいきたいと考える。

4 児童の実態から（男子12名、女子12名、計24名）

（1）この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

○昔遊びを通して、学級や他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わろうとする子ども

○身近な人々と一緒に昔遊びを楽しむ活動を通して、感じたことや気付いたことを進んで伝え合う子ども

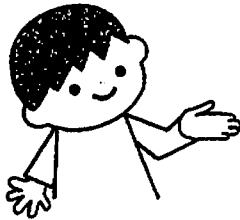
○昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付く子ども

子どもの思い・願い

みんなであそぶと楽しいな。
いろんな人と遊びたい。



教わったらもっと上手く
なったよ。わたしもお姉さ
んみたいに教えたいな。



保育園の子たちと一緒に楽
しめる遊びをしたいな。



(2) 教師の願いと配慮事項

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
教師の 願い	①昔遊びを通して、身近な人々と進んで関わることをできるようになってほしい。	②昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合うことができるようになってほしい。	③昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができるようになってほしい。
配慮 事項	①これまでに行ったことのある昔遊びを振り返ったり、新しく知った昔遊びに目を向けたりしながら興味をもてるようにする。友達や地域の人たちと昔遊びを通して、関わる場を工夫し、楽しめるようにする。	②身近な人たちとの関わりを通して、昔遊びを教わったり、保育所の幼児と遊んだりする中で伝え合い触れ合う楽しさに気付くために感じたことを共有する場を設けることや、言葉かけを行う。	③時間を確保し、いつでも遊べるように子どもたちがとれる場所におもちゃを置いておく。みんなで楽しく遊べるように、見つけた遊び方をカードに書いて見合えるようにする。

【昔遊びを楽しもう】

○昔遊びの経験を振り返る。(1)

- ・これまでにやったことのある昔遊びを振り返る。

○昔遊びをする。(5)

- ・けん玉、こま、お手玉、あやとり、おはじきなどで遊ぶ。

【名人に昔遊びの技を教わろう】

○地域の人々に招待状を書く(1)

○地域の人たちと遊ぶ。(1)

- ・地域の人たちから遊びのコツや遊び方を教わる。

○お礼の手紙を書く

【みんなで楽しく遊ぼう】

○保育園の子と一緒に遊ぶ準備をする。(3) 本時

- ・教わったことや見つけたことを教える準備をする。

○保育園の子たちと一緒に遊ぶ。(1)

- ・遊び方を教えながら、一緒に遊ぶ。

○これまでの活動を振り返る。(1)

留意点

- ・いろいろな遊びができるよう活動する時間を十分に確保する。
- ・遊ぶ道具の片付け方や遊び方について約束を確認する。
- ・それぞれのおもちゃで遊ぶ場所を決め、安全に遊ぶことができるように留意する。
- ・できるようになった技や遊びなど見せ合ったり、紹介したりしながら楽しめるよう声をかける。
- ・いろいろな人に声をかけて関わろうとしてる子を称賛し、進んでかかわることができるように促していく。
- ・できるようになったことをカードに書いて書き貯めておくよう声をかける。文字が書けない子は絵をかくよう促す。
- ・保育園の子が遊ぶ際には必ず一緒に行動し、手伝ってあげるように班分けを行う。
- ・これまでの活動を振り返り、できるようになったことやたのしかったことを話し合う時間を設ける。

資料7 千葉市立生浜東小学校 生活科年間指導計画

月	1 年	交流・人材	2 年	交流・人材
4	みんななかよし 16 ○ともだちたくさんつくろう (4)	1・2年交流	春はっけん 12 ○2年生になったよ (8) ○1年生よろしくねの会 (4)	大石さん
5	○わたしのがっこうどんなところ (6) ・あくしゅ大さくせん ・校舎内外のたんけん		花ややさいをそだてよう (10) ○野菜の苗植え ・さつまいも ・ピーマン ・なす ・ポップコーン ○種まき (トマト)	
6	○わたしのつうがくろ (4)		○かんさつ ○おいしい野菜ができたよ (収穫)	
7	○大覚寺山古墳たんけん (2)		動物公園へ行こう (18) ○計画を立てよう ○さあ、探検だ。 ○発表しよう ・作る ・リハーサル ・発表 ・反省	
8	なつとなかよし 16 ○おもしろいあそびがいっぱい (5) ・水や砂で楽しく遊ぼう ・楽しみだね、夏休み ○こどものくいで遊ぼう計画 (2) (5) ○花や実で遊ぼう (4)	百寿会 保育所交流	発見、感動、夏休み	京成電車 モノレール 動物公園
9	○たねがとれたよ (3) ○つるでリース作り (2) ○球根をうえよう (3)		町ではっけん (町探検) (17) ○わたしの町には発見がいっぱい ○町探検に出発。	
10	あきとなかよし 25 ○いきものとなかよし ・校庭で虫を見つけたよ (2) ○あきをみつけたよ ・葉っぱや木の葉で遊ぼう (リース作り) (3) ○作ろう秋のおくりもの (8) ○おもちゃランドをひらこう (10) ○大百泡公園に行こう (2)		生き物発見 ○かわいいね、うさぎさん (3)	
11	○昔遊びを楽しむ会 (3) ・教えてもらったよ、 (けん玉、おはじき、あやとり、こま、お手玉) ・友だちにも教えてあげよう (2)		○伝えよう町探検(発表会) ・作る ・発表	
12		保護者	サツマイモの収穫 (5)	大石さん
1	ふゆとなかよし 28 ○かぞくでいっしょにお正月 (5) ・大そうじ ・お正月のかざり ・じぶんのしごと ○楽しかったよ、お正月 (5) ・かるた、はねつき等		発見、工夫、おもちゃ作り (11) ○おもちゃのひみつ、はっけん。 ○1年生にも教えてあげよう	
2	○みんな、かぜのこ (4) ・風で遊んだよ。(風車、たこあげ) ・かぜあそび		自分、発見 (25) ○発見、自分のよいところ ○発見、友達のよいところ ○自分のことをもっと知りたいな。 ・自分の発見発表会 (0才の発表) ・おうちの人にも伝えたい ○自分発見、ブック作り ○未来に向かってはばたこう ・なりたくない、こんな自分	
3	○もうすぐ、2年生 (9) ・6年生へのプレゼント作り ・新1年生をむかえるじゅんぴ ・ありがとう、わたしの教室 ・教室のかざりつけ ・1年間のできごと		ありがとうを届けよう (招待状) (4)	

資料 8

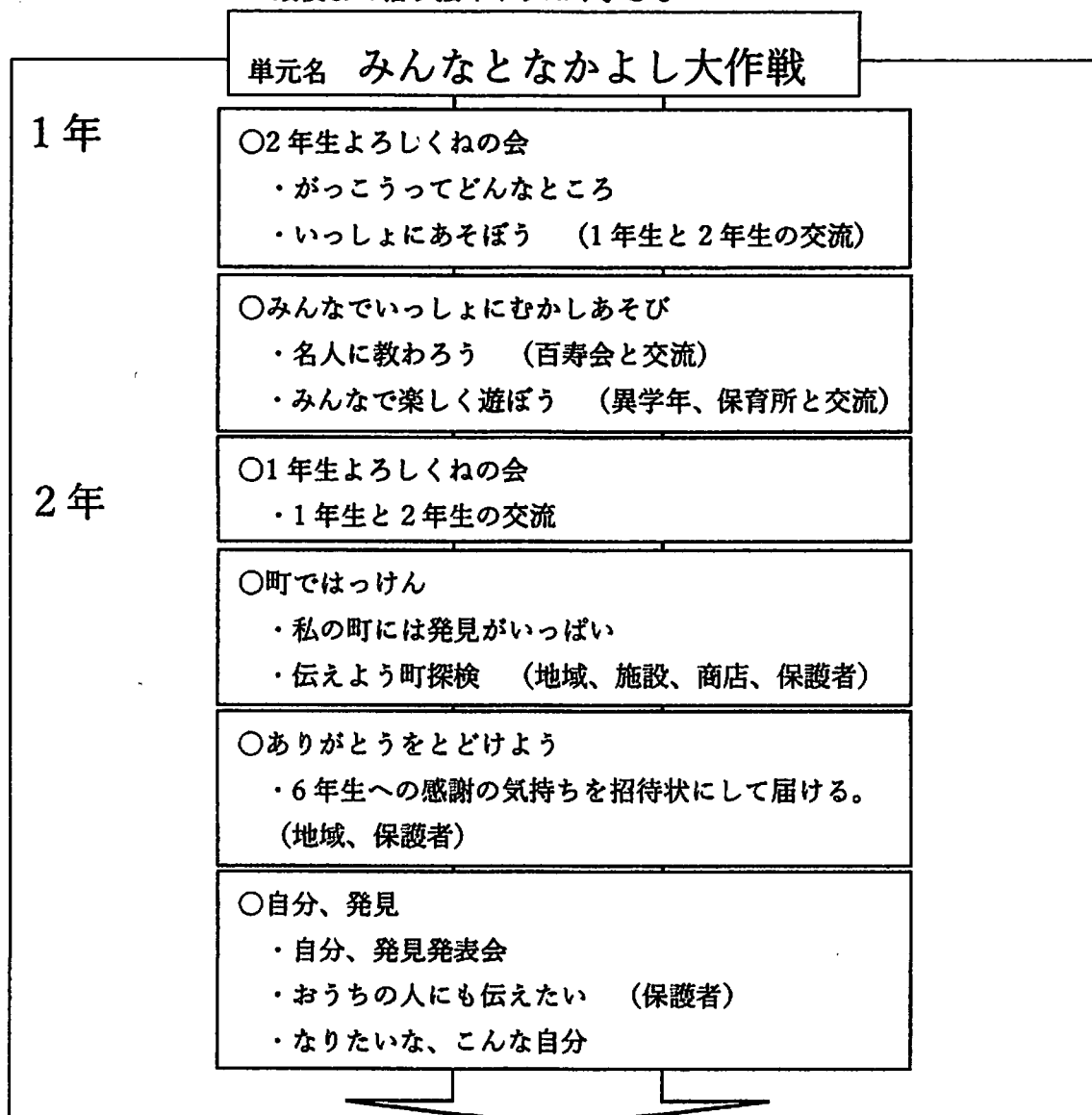
千葉市立生浜東小学校 生活科 単元名「みんなとなかよし大作戦」単元計画

学校教育目標

ひとりひとりのよさを伸ばし、豊かな心を育てる

めざす子ども像

- 深く考える子 →自分をしっかりと見つめながら、また、相手の立場も尊重しながら、よりよい判断のもとに行動できる子ども
- 生き生き表現できる子→豊かな感性をもち、自分の考えを素直に書いたり、話したり、体を使ったりして生き生きと表現できる子ども
- 力強くたくましい子 →心身共に健康で明るく、何事にも積極的に取り組み挑戦するとともに、最後まで粘り強くやりぬく子ども



- 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合うことができる。
- 自分たちの生活や地域の出来事を伝え合う活動を通して、身近な人々とかかわることの楽しさが分かる。
- 自分たちの生活や地域の出来事を伝え合う活動を通して、進んで交流することができる。